

三管 修展 中国陶磁憧憬  
二〇一六年六月二十五日(土) ~ 七月四日(月) 会期中無休





料金後納  
ゆうメール

三笠修展 中国陶磁憧憬

二〇一六年六月二十五日(土) ～ 七月四日(月) 会期中無休  
 営業時間 十一時～十八時 作家在廊日 六月二十五日(土)

三笠修さんは、大分県の山間にある小さな村で器を作っています。三笠さんの器の印象はとても静かです。その理由は三笠さんの器の作り方にあります。スライスした粘土を石膏型に内側から押し当てて形を作っていく方法です。ろくろ挽きのように動的な流れを出すのではなく、内へ内へ向かって作り込んでいます。釉薬となる木灰も周辺で調達できるものを地道に使い、少ない因子の組み合わせで自分らしい器にしていきます。決して欲張らず派手な方には向かいません。こうした三笠さんのこつこつとした器づくりの姿勢が、その静かさに繋がっているのです。

ここ数年、三笠さんは台湾や中国で展示会を開催することが多くなってきました。端正な造りに侘びた質感の茶器が、現地の中国茶器とは違った視点で評価されているのです。以前は自作に古典の様式を前面に出すことなく、どちらかと言えば無国籍なスタイルでしたが、こういう経験を通して中国文化に触れ、あらためて中国や周辺国の古典様式への憧れが強くなっているそうです。

今回、青磁・白磁・黒釉・灰釉など中国の古い器に通じる形や色を意識したうつわをご覧ください。それは高貴な階級に向けた華美な器ではなく、民衆のために造られた素朴な姿をしています。底流に古典を取り込みながらも、三笠さんが咀嚼した独特の世界観にきっと目が留まることでしょう。梅雨入りの季節となりますが、しっとりとした庭木と共に美しい器をどうぞご覧ください。

店主

三笠 修プロフィール

1973年 大分県生まれ  
 1996年 東京学芸大卒業  
 1997年 陶芸家・寄神宗美氏に師事。京都、信楽にて陶芸を学ぶ  
 2001年 愛知県常滑市にて独立  
 2007年 大分県日田市に移住  
 2016年 現在、大分県日田市にて製作

ギャラリー うつわノート

埼玉県川越市小仙波町1-7-6  
 TEL 049-298-8715  
 MAIL utsuwanote@gmail.com



電車：川越駅(東武東上線・JR)より徒歩25分  
 本川越駅(西武新宿線)より徒歩20分  
 バス：駅東口3番乗場 [小江戸名所めぐり]～[喜多院前]  
 駅西口2番乗場 [小江戸巡回バス]～[喜多院]  
 車：ギャラリー専用の新駐車場は北側(5～8番)

